

事業所名

ことばと発達の相談室おのまとペ

支援プログラム（参考様式）

作成日

2026年

3月

12日

法人（事業所）理念		個人の尊厳を大切に、お子さんが安心・安全に過ごせる環境の中で、その人らしい成長を支え、社会の中で生きる力を育み、未来へつなげます。					
支援方針		一人ひとりのお子さんの可能性を最大限に引き出すことを目指し、ご家族と多職種の連携のもとで、個別のニーズに寄り添った支援を行います。					
営業時間		9時	0分	17時	0分	送迎実施の有無	なし
		支援内容					
本人支援	健康・生活	安心して活動に参加できるよう、ご利用時のお子さんの健康状態を観察・把握し、心身の状態に配慮した支援を検討。健康状態の維持や改善を踏まえながら、基本的な生活スキルの習得や生活リズムの形成に向けた支援方検討。また、日々の睡眠・食事・排泄等の生活習慣についてご家庭から状況をお聞きし、必要に応じた助言を行う。食事については、摂食の様子や食事環境を確認しながら、姿勢の保持、咀嚼、発音の発達にもつながる食べ方や環境への配慮について言語聴覚士の視点から助言を行います。 さらに、活動中の教室環境をわかりやすく構造化し、お子さんが安心して行動できる環境を整えます。活動や行動の様子を観察しながら、環境調整や支援方法の工夫を行い、安定した生活と活動への参加を支援します。					
	運動・感覚	お子さん各々の感覚特性を理解し、安心して活動できる環境の中で、粗大運動や姿勢の保持や体幹の安定など、身体の基礎的な機能の発達を支援。また、「聴く・見る・触れる」などの感覚を活用した活動を取り入れながら、感覚入力調整を図り、身体や環境への気づきの促進。目と手の協応を促す活動や、書字・はさみの使用などの微細運動、さまざまな手先の操作を楽しみながら経験できる機会を提供。 これをの活動を通して、身体の使い方や感覚の調整力を育むとともに、活動への参加や注意や集中などの高次機能の発達につながる支援を行う。					
	認知・行動	それぞれのお子さんの認知特性を理解し、個々の発達段階に応じた課題や遊びを通じた支援。活動の中で、言語理解や概念形成の発達を踏まえながら、物の機能や属性、大小、数、重さ、空間、時間などの概念の理解を促し、それらを日常生活の中で活用できる力を育む。 また、見通しを持って活動に取り組めるよう、環境の工夫や視覚的な手がかりを用いながら、注意や理解を支える支援を行う。その他、感覚や認知の偏り、コミュニケーションの困難さなどから生じる行動については、その背景を理解し、適切な行動につながるよう予防的な支援や対応を目指す。					
	言語コミュニケーション	言語発達・発達段階に応じた個別の課題や活動を通して、やり取りの経験を重ね、ジェスチャー、音声、言語などさまざまな伝達手段の活用と、その子に適したコミュニケーション手段の獲得を促す。 言語聴覚士の専門的視点から、言語理解と表出の発達を支援するとともに、語彙の拡大や概念形成を促し、コミュニケーション能力の向上を図る。 また、保護者と連携しながら、言語・学習・コミュニケーションに関する課題を共有し、家庭生活の中でも取り組める環境調整や支援方法をともに検討する。 さらに、構音（母音・子音）の発達や読み書きの課題に対して、直接的な指導と環境整備を行い、言語や文字の理解と活用につながる支援を行う。					
	人間関係社会性	指導担当者を固定せず、さまざまな指導者との関わりの中で多様な相互関係を体験し、安心・安全な人間関係を築く経験を重ねる。 課題や活動を通して基本的な他者とのやり取りや交渉の経験を積み、ソーシャルスキルトレーニングの視点から他者視点への気づきや自己理解を促すとともに、集団活動への参加につながる力を育てるまた、活動を通して行動の調整やルール理解を支援し、仲間との関係づくりや社会性の発達を支える。					
家族支援		都度の支援での待機時間、見学時間に保護者への聞き取り、指導後のフィードバックと現時点でのお子さんへの関わり方に関する具体的アドバイス。きょうだい児への子育て不安やその他事業への具体的対応など、個別相談および助言。			移行支援		就園、就学に向けてお子さんの情報提供や個別の連携を行う。就学相談などの行事を通して保護者と情報共有を行う。
地域支援・地域連携		保護者との面談を行い園や学校、相談支援事業所を交えた情報交換や連絡等で連携支援を目指す。			職員の質の向上		県や自治体主催研修への参加。新しい知見や情報、スキルを職員と共有。事業所内研修の実施スキルアップを図り、利用者の支援計画の理解と実線に直結できるよう支援。（虐待、感染症、防災等含む）
主な行事等		・保護者会の開催を予定。 ・本人支援を通して、節句に応じた環境を整えたり季節や行事などを取り入れた題材を用いた療育内容にすることで、時節変化のある支援へつなげる。					